

思いつくままに一(スイス方式の開発)

石川寿囲碁同好会 松田礼治

2007年10月28日やまゆり会館で開催された、やまゆり囲碁同好会と恩方囲碁同好会の合同の碁会に参加しました。当日は駐車場が気に入り早めに到着し、時間を持て余しましたので会館の裏側を散歩しました。どこもご同様に宅地化されていましたが、住宅の間に農地が散在していました。早朝から家族で大根、ほうれん草を収穫し、軽トラックへ積み込んで出荷されているようでした。のどかな田園風景です。

コシヒカリなど美味しい米までも外国で作られ輸入される、またぶどう酒も南アフリカで作られフランスに輸入される時代で農業はどこも苦しいようです。農耕地面積はEUの十数分の一、アメリカの百数十分の一、規模での対抗は不可能でしょう。新鮮な野菜等の生産地として、また景観等の環境価値を評価して、存続できるように行政、市民ともにサートしていく事が大切でしょう。

やまゆり囲碁同好会の廣島松治さんより、何年か前に私のホームページをご覧になりスイス方式対局組み合わせソフトについて問い合わせを頂き、いろいろご説明しました。廣島さんとはそれ以来の付き合いで碁会にも毎年招待いただいています。ホームページを通してコミュニケーションの輪が広がり、ありがたいことだと感謝しています。

対局表は会長の三浦和夫さんが同ソフトを使ってなるべく、やまゆりの会員と恩方の会員が当たるように作られているそうです。何回、対局表を作っても違った組み合わせが出るとお褒めを頂いています。乱数を使って試行錯誤により組み合わせを求めるプログラムで乱数列の数だけ異なった対局表が出来ます。また、このソフトを使うことによって、大会運営で役員が苦勞せず、かつ対局にも参加できると非常に喜ばれています。

10何年か前にプログラムを作った当時は解が出るまでに何時間もかかりましたが、今では殆ど瞬時に解が出るようになりました。ハードの性能向上は凄い

です。色々条件を変えてのシミュレーションも容易に出来ます。対局表の作成だけでなくノートパソコンを持ち込み、順位の計算にもお使いいただければ、かなり労力の節約になります。また地区団体対抗戦の組み合わせにも応用できます。

コンピュータのハード、ソフトの発展はめざましく、オセロ、チェスはグランドチャンピオンに負けないソフトが出来ました。将棋でも県代表クラスに勝てる、また近い将来にはプロにも対抗できるようなソフトが出来つつあります。碁のソフトは相変わらず級位クラスの実力のようです。味が悪い、厚い等のパタン認識、またコウの処理が難しいためでしょうか。しかしそのうちには素晴らしいソフトが出来るでしょう。

最近、地球環境問題、資源・エネルギー問題が毎日のようにマスメディアで報じられていますが、現時点では効果的な対策はないようです。50年後には、これまでの延長線上にはない革新的な技術が開発され、持続可能な社会が建設されるのでしょうか。そこでは現在同様に楽しげに対局が行われています、対局が終わるとコンピュータが解説、手直しをしてくれます。またレベルを指定してコンピュータとも対局できます。名人もコンピュータ・プログラムには絶対に勝てません。プロ棋士はどうなるのでしょうか？

自然科学は進歩しますが、社会科学は進歩しないのでしょうか。有史以来、国家、人種、宗教等の間の争いは絶えないようですね。50年後も変わらないでしょうね？

(碁楽連だより 第197号 発行日 2007年12月15日)